

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.91

配信日：2025 年 6 月 20 日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

須坂新聞 記事紹介

“ 樹木の境界地帯で小さな発見 ”

相談役・理事 北村 豊 先生

当会の相談役・理事 北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙※(Email の場合：別添)(Fax の場合：本状含め 2 枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元：「須坂新聞」 2025 年(令和 7 年)6 月 14 日 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承ください。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: info@tpdimplant.com

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

樹木の境界地帯で小さな発見

私は、広葉樹が「バースデースーツ」のみをまとって(全て落葉して素っ裸で化粧っ気もない木の状態)、冬の森で大木が天空に向かってそそり立つ樹形を眺めるのが子供の頃から大好きであった。

雪もほとんど解けたであろう5月中旬に、山の春の気配を感じたくて奥志賀高原に行く

てみた。その辺りは標高1400〜1500

発見」があった。それは、混在している木々に既に萌芽している木と、全く若葉がつかない木があることであった。

とそれぞれの国で違っている。

長野県人の皆さんならよくご存知のように、1400〜1500

高原の長く厳しい冬を耐え忍んで、まさに新緑の色をしているのはシラカバの木で、樹皮の色からも簡単に判断がつくが、やや肌色がかった白をしているダケカンバはまだ萌芽していない状態であった。

オノマトペ(擬音語、擬態語)の海外の言語での発声はかなり難しいと言えるが、日本ほど「オノマトペが豊かな情緒を感じる国民」はなかなかないのではないだろうか？

雪もほとんど解けたであろう5月中旬に、山の春の気配を感じたくて奥志賀高原に行く

0℃地帯は、それ以下の標高を好む植生を持つシラカバと、同高度以上のより寒い高地を好むダケカンバとの境界地帯なのである。

遠くからだと、期間限定ではあるが、5月中旬の時期には萌芽しているかどうかのところが、樹皮の色よりもこれらの木の種類をより判断しやすいようである。

読者の皆さんには「被害妄想だ」と言われそうだが、奈良の大仏さんのお膝元で育った私はれっきとした元関西人で、関西弁で親しい人から「あほ」とか「あほやな」と言われることには、情がこもっていて相手の至らなさや欠点をやさしく包み込む包容力と愛情を感じる言葉である。

雪もほとんど解けたであろう5月中旬に、山の春の気配を感じたくて奥志賀高原に行く

5月中旬に、この「境界地帯」に行ってみて、私にとつての「小さいけれど面白い

この文章を書いている窓の外からは、夏鳥のカッコウの鳴き声が聞こえてくる。

さて「道路脇」の木の話から、大きく「脇道」にそれてしまったが、信州の人にも、自然豊かな好みの場所

フォトエッセー
北村 豊

カッコーという鳥の和名は、まさに擬音語から来た鳥の名前であるが、英語では「クークー」、フランス語では「クックック」というそうであるが、中国では「グーグー」

信州口腔外科インプラントセンター所長(小布施町林)

信州口腔外科インプラントセンター所長(小布施町林)



5月中旬の奥志賀高原。萌芽していないダケカンバと、若葉がついているシラカバ(右奥)

カッコーという鳥の和名は、まさに擬音語から来た鳥の名前であるが、英語では「クークー」、フランス語では「クックック」というそうであるが、中国では「グーグー」

信州口腔外科インプラントセンター所長(小布施町林)